

令和3年度第3回図書館協議会議論から主な意見について（まとめ）

1. 主な意見

当事者ニーズを把握することについて

- ・技術の進歩により多様な読書形態が広がっているように感じている。それらの実態を把握することも必要ではないか。当事者間の情報格差のような課題もそれにより見えてくるかもしれない。
- ・資料のデジタル化に伴い読書機器や手段も多様化している。それらの使い方を情報提供していくこともニーズに応えることになるのではないかと。情報提供への反応をサービスの改善につなげることもできる。
- ・デジタル化に伴う読書支援に関しても、それを担う人材の確保、育成が欠かせない。対面朗読や音点訳図書製作についても、今後はボランティアに頼りすぎないように留意が必要ではないか。
- ・すべての市民の読書ということを考えるときに、外国人が日本語を読むことの障壁を図書館利用の障害ととらえ、議論していく必要を感じる。
- ・教育現場でも教科書のバリアフリー化など参考資料の中にも関心の高い事例がいくつかあった。児童、生徒の利用を想定すると、より細かく習熟度に応じた、ていねいな情報提供や支援が必要になってくる。
- ・多様化に図書館だけで対応することは事実上困難ではないか。関係機関、団体との連携が鍵である。調査にあたっては、ネットワークを活かすという視点を踏まえておくべきである。
- ・調査によってできたネットワークは、図書館サービス全体を発展させることにもつなげられるのではないかと。
- ・これまで提供された市の統計や過去の調査事例からうかがえることから、今回の調査事項を絞り込んで、調査実施案を具体化してはどうか。
- ・調査は市立図書館の機能を踏まえたうえで、目的や内容を設定すべきである。資料や情報の提供、蓄積、それらに関係するスキルは図書館の担う部分である。

その他

- ・誰もが見られるフロアで障害者サービス等の情報発信をすることの必要性は、前回の議論で確認されており、（事例報告のあった展示企画について）継続して取り組んでほしい。
- ・展示の場所を変えて実施することで、さらに周知の広がりを期待できる。企画に対しての反応のはかり方も工夫が必要である。
- ・学校図書館は公共図書館とも連携しており、読書バリアフリー環境を充実させていく役割を期待できる。

以上

【第1回協議会事前資料】

- ・令和3年度第3回図書館協議会議論から主な意見について（まとめ）
- ・図書館での読書バリアフリーの取組みについて 障害当事者への意見聞き取りに関する計画（案）
- ・「図書館利用や読書についての意見聞き取りへのご協力をお願い」（先行実施アンケート調査票）
- ・豊中市身体障害者福祉会 聞き取り実施報告（先行実施アンケート報告）
- ・「豊中市立図書館の利用について」（来館者アンケート素案）